

第4章 まち並みとにぎわいづくりの方針

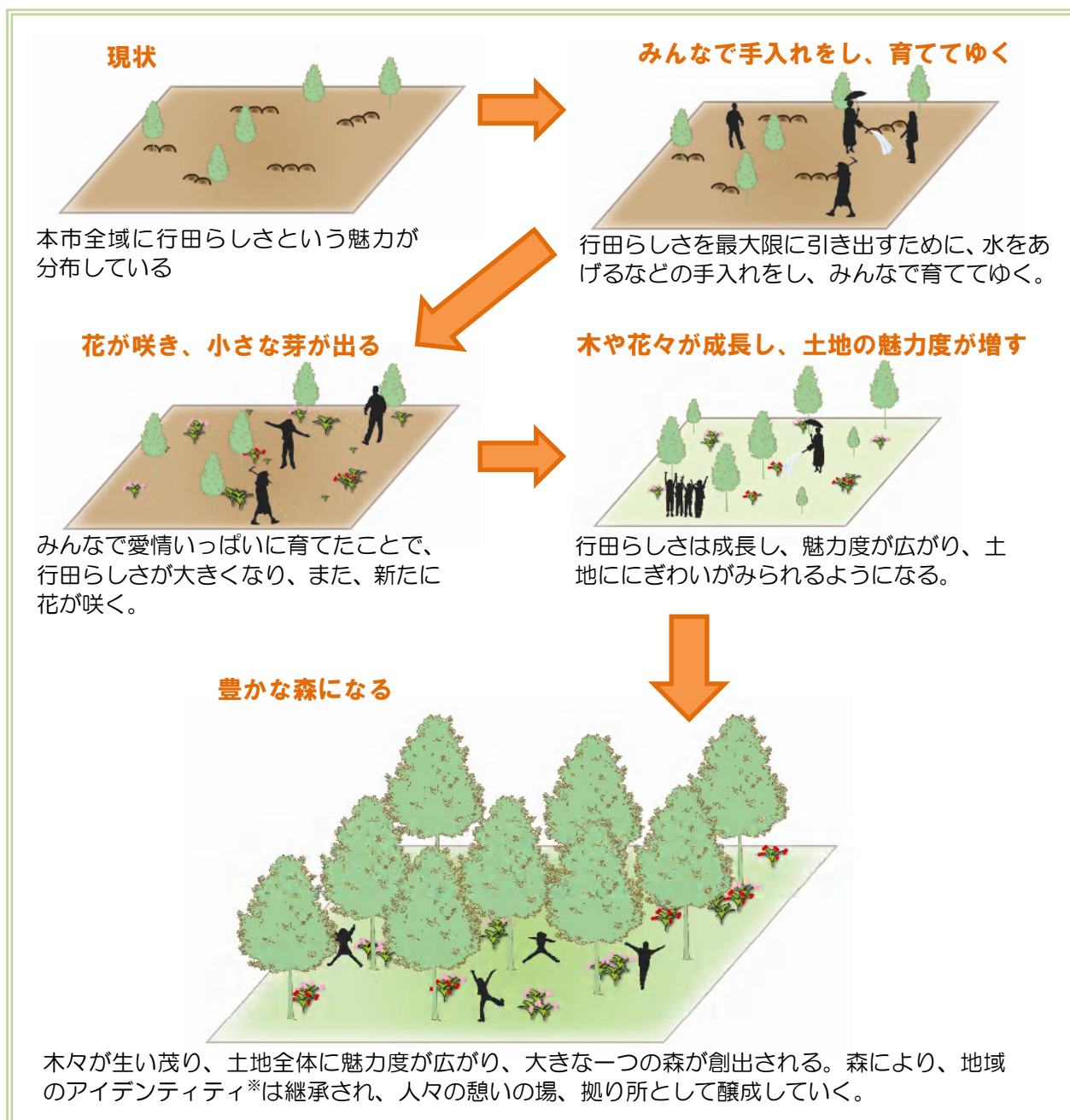
1. 行田らしいまちづくりの基本理念

本市の特徴や魅力を最大限に引き出すとともに、先人達の築き上げてきた伝統・文化を継承していくために、行田らしさが溢れるまちづくりを進める必要があります。

行田らしいまちづくりは、みんなが一丸となり、地域の魅力を引き出すための取組みを行い、周辺にその動きを波及させるといった、各地域での小さな動きを市全体に波及させ、行田らしさの醸成につなげていくものです。

この行田らしさの醸成により、そこに住む人だけでなく、学び、働き、来訪する人々も、本市に住みたい、住み続けたいと感じ、本市への愛着が育まれます。

■行田らしいまちづくりの基本理念のイメージ図



2. 行田らしさを活かしたまちづくりとは

(1) “行田らしさ” とは

本市は、広々とした平坦な地形を有しており、河川・水路などの水資源や田園などの緑資源に恵まれています。また、埼玉県名発祥の地であるとともに、北関東の中心の城下町として栄え、現在も、市内には、埼玉古墳群や忍城址を代表とした歴史・文化資源など、地域資源が多数存在しています。これらの歴史・文化は市民の誇りとなっており、地域資源を活かしたまちづくりが活発に行われています。

また、河川と湧き上がる伏流水※が地形を形成しながら自然を育み、その地形と自然の中で人々が生活を営みながら、歴史を積み重ね、この歴史の重層の中で文化が熟成されてきました。この環境で行田らしい気風を持った人々が育つことで、“行田らしい”風土が醸成されています。

これらの本市特有の地形、自然、歴史、文化、気風“らしさ”をまちづくりに活かし、本市の成長につなげていきます。

【“行田らしさ” とは】

- 広々とした平坦な地形が特徴であり、生活の営みや歴史・文化の発展の基盤である【地形“らしさ”】

河川や湧き上がる伏流水により形作られた自然堤防と、微高地化した埋没台地とが織りなす、平坦な“行田らしい”地形

- 自然資源に恵まれ、生活も歴史も「水」と共生してきた【自然“らしさ”】

利根川・荒川の二大河川と忍川、星川などの中小河川、湖沼地などの「水」に育まれ、遠方に山々が連なる“行田らしい”豊かな自然環境

- 古代から現代まで連綿と続く歴史が重層している【歴史“らしさ”】

古墳時代の遺跡、近世の町割り、近代のまち並みなど、古代から現代まで永きにわたる歴史が重層的に積み重ねられ、埼玉古墳群や忍城址、足袋蔵などの歴史的資源が今なお残る“行田らしい”歴史的環境

- 北関東の中心として栄えた文化があり、埼玉県名発祥の地である【文化“らしさ”】

埼玉県名発祥の地で、古代より北関東の政治・文化・物流・産業の中心地として繁栄してきた歴史の中で熟成された“行田らしい”文化的環境

- 先人が培ってきた文化の継承が、市民の誇りにつながっている【気風“らしさ”】

郷土への誇りと愛情を持ち、豊かな水と緑、奥深い歴史と文化を継承・発展させようと努力する“行田らしい”人々の気風

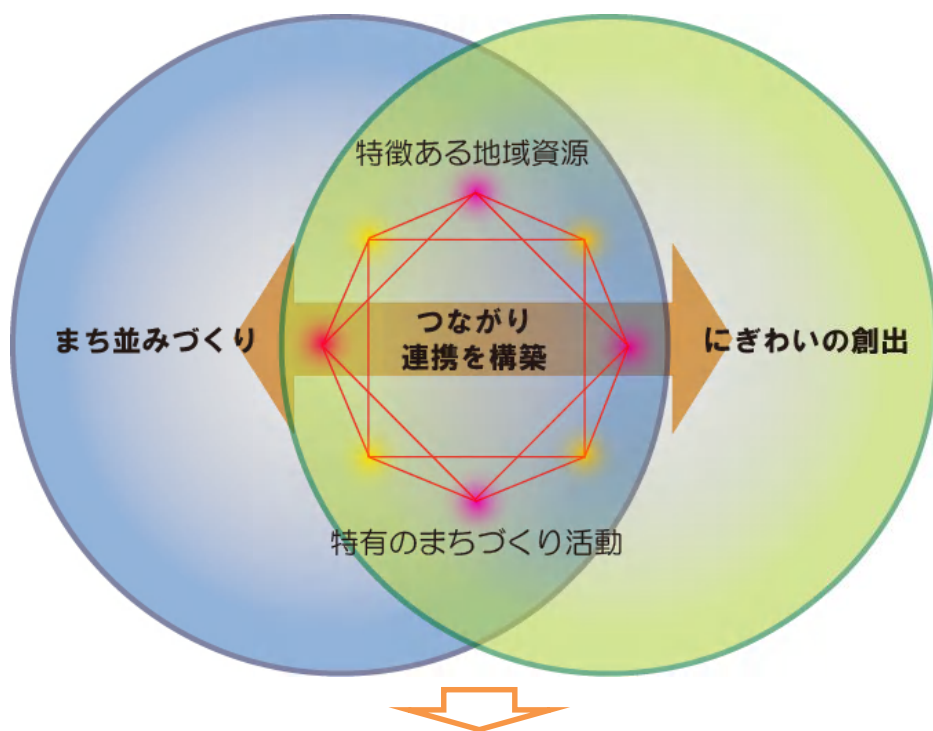
“行田らしい”風土・気風

（２）“行田らしさ”を活かしたまちづくりの方向性

“行田らしい” 風土・気風を活かし、にぎわいにつなげるまちづくり

多様な“行田らしさ”を活かし、まち並みづくりとにぎわいの創出を図るため、水と緑、歴史と文化などの資源を保全・継承・活用し、豊かな生活と調和したまちづくりを市民などと行政が協働で取り組みます。

【“行田らしさ”を活かしたまちづくりのイメージ】



“行田らしさ”を活かしたまちづくりの実現

〈方針の位置付け〉

○行田らしさを活かしたまちづくりの方針

“行田らしさ”を活かしたまちづくりを進めていくために、「まち並みづくり」と「にぎわいの創出」という２つの観点に則したまちづくりの方向性を位置付けます。

○地域資源を核としたまちづくりの方針

「まち並みづくり」と「にぎわいの創出」に向けて、本市の特徴ある地域資源を核とした

3. 行田らしさを活かしたまちづくりの方針

(1)「行田らしい」まち並みづくりの方針

方針①：行田らしい特徴的な資源と調和したまち並みを形成する

本市は、都市拠点※（中心市街地及びＪＲ行田駅周辺）とその周辺を含む都市生活圏※（主に市街化区域）、郊外部などの地域生活圏※（主に市街化調整区域）から形成され、地域ごとに、まち並み形成の要素となる特徴的な資源があります。都市拠点に点在する歴史的建築物と調和した住宅・店舗のまち並み形成や周辺の落ち着いた住宅地景観、都市生活圏の新興住宅地における周辺の緑と調和したゆとりある住宅地景観、地域生活圏における屋敷林と調和した集落地景観など、地域の歴史・文化資源、自然資源と調和したまち並みを形成します。

■都市拠点、都市生活圏、地域生活圏の考え方



方針②：暮らしと公的空間が一体となったまち並みを形成する

建築物単体の景観形成や地域資源と調和したまち並み形成を図るだけではなく、地域全体で一体的なまち並み形成を図る必要があります。道路や公園などのパブリック空間と市民の暮らしを営むプライベート空間が調和したまち並みの形成に取り組みます。

方針③：住みやすく、快適に過ごしやすいまち並みを形成する

まち並み景観の形成にあたっては、一方的な規制やルールによる景観形成ではなく、市民が主体的にまち並みづくりに取り組むことが重要です。地域で住みやすく、快適に過ごしやすい空間をみんなで創っていくことで豊かな暮らしを実現するという観点から、地域への愛着や誇りを醸成し、豊かな生活を感じることができるとまち並みの形成を図ります。

(2)「行田らしい」にぎわい創出の方針

方針①：核となる資源を活用し、地域の活性化とにぎわいを広げる

市内には、秩父鉄道行田市駅やＪＲ行田駅などの公共交通資源、中心市街地に位置する忍城址や水城公園、南東部に位置するさきたま古墳公園や古代蓮の里などの歴史・文化資源、地域生活圏に広がる河川や水路、田園などの自然資源など、地域活性化の核となる資源が多数点在しています。これらの地域資源を活用し、更なる地域の活性化とにぎわいを創出します。

方針②：周辺の資源と連携し、地域から市全体のにぎわいにつなげる

本市の核となる資源を活かし、地域公共交通※ネットワークの形成や回遊できるルートの形成、また、総合的な情報発信などにより、行田らしさを最大限に活用することが重要です。資源間の連携を強化し、地域のにぎわいから市全体のにぎわいにつなげます。

方針③：まちづくりの取組みが相互に連携し、新たなにぎわいを生み出す

本市では、川のまるごと再生や田んぼアートなど、地域資源を活用した取組みを推進しているとともに、観光ボランティア活動やふらい・ゼリーフライなど食のＰＲなど、市民主体のまちづくり活動が活発に行われています。これらの地域資源を活用した取組みや活動の連携を強化し、本市特有の新たなにぎわいを創出していくことで、魅力の向上を図ります。

4. 地域資源を核としたまちづくりの方針

市内に点在する地域資源を核として、資源と調和したまち並みづくりや資源を核としたにぎわいの広がり、資源間のネットワークの形成により、行田らしい特徴を活かしたまちづくりに取り組みます。

それぞれの地域資源を核としたまちづくりの方針と取組みの方向を掲げ、本市全域のまち並みづくりとにぎわいの創出を図ります。

核となる主な地域資源

- JR行田駅
- 秩父鉄道行田市駅などの交通結節点
- 忍城址
- 水城公園
- 埼玉古墳群（さきたま古墳公園）
- 古代蓮の里
- 利根川・忍川・武蔵水路などの河川や水路
- 平坦な地形に広がる田園
- 足袋蔵などの歴史的建築物

【地域資源を核としたまちづくりの考え方】

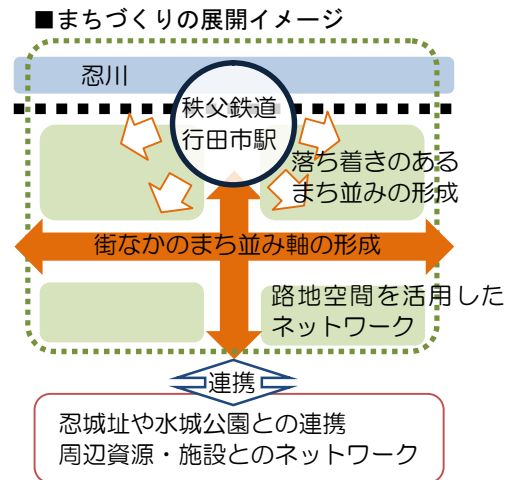


（１）秩父鉄道行田市駅周辺を核としたまちづくり方針

歴史・文化と暮らしが調和し、にぎわいあふれるまちづくり

秩父鉄道行田市駅は、中心市街地の玄関口であり、その周辺には、新町通りや本町通りを中心に商店街が形成されています。また、城下町としての町割りや近世の歴史的建築物が多数残されており、これらの地域資源を活かしたまち並みの形成を図ります。

また、中心市街地や周辺の地域資源をつなぎ、回遊性を向上するとともに、商店街の活性化や公共空間の整備により、秩父鉄道行田市駅周辺のにぎわいを創出します。



取組みの方向

【秩父鉄道行田市駅周辺を核としたまち並みづくり】

歴史的建築物と周辺の住宅や店舗が調和した落ち着いたまち並みを形成する

歴史的建築物の保存・活用を図り、周辺住宅地と調和した落ち着いたまち並みを形成します。また、点在する寺社などの歴史的資源やまとまりのある緑を保全するとともに、市街地における緑化を推進します。

《取組みの方向》

- 歴史的建築物を保存・活用したまち並みづくり
- 落ち着いたたたずまいの住宅地の景観づくり
- 歴史的な雰囲気が感じられるまち並みづくり
- 商店街におけるにぎわいのあるまち並みづくり
- まとまりのある緑の保全と市街地の緑化



忠次郎蔵（歴史的建築物の活用）

【秩父鉄道行田市駅周辺を核としたにぎわいづくり】

路地空間を活用し、つながりをつくることにより、にぎわいを向上する

新町通りや本町通りをにぎわいのあるまちなか景観軸として位置付け、周辺の路地空間とのつながりや空き店舗、空き地、空き家などの遊休資源※の活用により、にぎわいの向上を図ります。

《取組みの方向》

- 商店街の活性化
- 誰もが歩きたくする回遊しやすいまちなかの形成
- にぎわいや歴史的風情が感じられる空間の形成
- 主要な通りからにぎわいが広がる路地空間の形成
- 空き店舗、空き地、空き家を活用した沿道のにぎわいづくり
- 秩父鉄道行田市駅周辺のにぎわい拠点づくり
- 誰もが親しみやすい水辺空間の形成



新町通り商店街

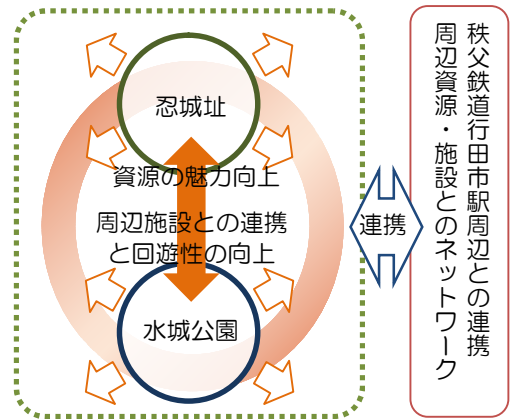
（２）忍城址や水城公園などを核としたまちづくり方針

水と緑の歴史が織りなすまちづくり

本市のランドマークである忍城址は、映画“のぼうの城”による知名度の向上をきっかけに多くの観光客が訪れる地域資源であり、隣接する水城公園は市民の憩いの場となっています。

忍城址への眺望に配慮した市街地の形成を図るとともに、水や緑と調和した住環境の形成とまち並みづくりに取り組みます。また、忍城址や水城公園といった核となる資源と周辺の歴史・文化資源との連携を図り、一体的なにぎわいの創出を図ります。

■まちづくりの展開イメージ



取組みの方向

【忍城址や水城公園などを核としたまち並みづくり】

忍城址の眺望の確保と、水や緑と調和したまち並みを形成する

忍城址は本市のランドマークとなる景観資源であり、周辺の市街地や住宅地からの眺望を維持するための景観誘導^{*}を図ります。また、水城公園などのまとまった緑を保全し、水や緑と調和したゆとりのあるまち並み形成を図ります。

《取組みの方向》

- 忍城址が眺望できるまち並みの維持
- 水城公園などのまとまりのある水や緑と調和したまち並みの形成
- 歴史的な雰囲気が感じられるまち並みづくり
- 水辺に親しむことができる潤いのあるまち並みづくり



忍城址の眺望

【忍城址や水城公園などを核としたにぎわいづくり】

誰もがゆとりを感じ、水と緑にふれあうことができる空間を創出する

市民の誇りでもある忍城址や水城公園を活用し、歩きながら豊かな水と緑にふれあうことができる空間を創出します。また、玄関口となる秩父鉄道行田市駅からの連続性を確保することにより、市民や来訪者が回遊し滞在できる空間づくりに取り組みます。

《取組みの方向》

- 忍城址を拠点とした回遊性の向上
- 憩いの場となる水城公園の水辺空間づくり
- 忍城址や水城公園の魅力向上と情報発信
- 周辺の施設と連携した滞在できる空間づくり



憩いの場となる水城公園

(3) JR 行田駅周辺を核としたまちづくり方針

利便性を活かした定住と交流によるにぎわいのあるまちづくり

J R 行田駅は、高崎線により都心まで約 1 時間でアクセスできる利便性を有しており、南の玄関口となっています。この利便性の高い立地条件を活かして、良好な住宅地を形成し、定住を促進します。

また、J R 行田駅周辺の拠点性を高めるとともに、忍城址や埼玉古墳群、古代蓮の里などの主要な地域資源との連携を強化し、交流人口の増加を図ります。

■まちづくりの展開イメージ



取組みの方向

【JR 行田駅周辺を核としたまち並みづくり】

“住みやすい”と思う良好なまち並みを形成し、住み続けることができる環境を形成する

J R 行田駅周辺のまち並み形成や住宅地の緑化の推進、自然と調和したまち並み形成により、快適でゆとりある住宅地景観を形成します。また、利便性の高い立地条件を活かし、“住みやすい”“住んでみたい”“住み続けたい”と思うまちづくりを進めます。

《取組みの方向》

- 新興住宅地や主要街路におけるまち並みの形成
- 緑化の推進による緑豊かなまち並みの形成
- 快適でゆとりある住宅地の形成



ゆとりある住宅地

【JR 行田駅周辺を核としたにぎわいづくり】

南の玄関口としての拠点性を高め、地域資源との連携を強化する

南の玄関口として、駅前広場周辺の整備や周辺の低未利用地※となっている土地の活用により、J R 行田駅周辺の拠点性の向上を図ります。また、本市の観光資源の情報発信機能を強化するとともに、地域公共交通ネットワークを充実させます。

《取組みの方向》

- J R 行田駅の拠点性の向上
- 観光資源に関する情報発信機能の充実
- 市内地域資源を結ぶ地域公共交通ネットワークの充実
- J R 行田駅周辺の低未利用地の活用とまち並みの形成



J R 行田駅

（４）埼玉古墳群や古代蓮の里などを核としたまちづくり方針

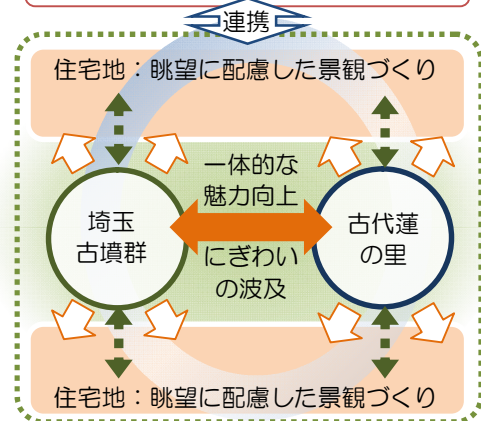
古代からの歴史と自然を活かしたまちづくり

埼玉古墳群や古代蓮の里は、全国から多くの観光客が訪れる本市を代表する地域資源であることから、更なる魅力の向上を図るとともに、特徴的な自然資源との調和に配慮した景観形成を図ります。

また、それらの資源の歴史・文化を継承するとともに、資源間のネットワークを強化し、にぎわい創出に向けた活用を図ります。

■まちづくりの展開イメージ

周辺資源・施設とのネットワーク



取組みの方向

【埼玉古墳群や古代蓮の里などを核としたまち並みづくり】

埼玉古墳群や古代蓮の里との調和や各資源からの眺望に配慮したまち並みを形成する

埼玉古墳群など地域の特徴的な緑と調和した景観の形成を図るため、周辺住宅地の緑化を推進します。また、丸墓山古墳や古代蓮の里展望タワーなどからの眺望に配慮した景観づくりに取り組みます。

《取組みの方向》

- まち並みの背景となる古墳などの緑の保全
- 核となる資源からの眺望の確保
- 自然環境と調和した住宅地のまち並み形成



埼玉古墳群

【埼玉古墳群や古代蓮の里などを核としたにぎわいづくり】

核となる資源の歴史・文化の継承と周辺に波及をもたらしにぎわいを創出する

埼玉古墳群や古代蓮の里は本市を代表する地域資源であり、各資源の更なる魅力の向上を図るとともに、忍城址などの地域資源と連携を図るため、市内を回遊するネットワークを形成することにより、効果的ににぎわいを創出します。

《取組みの方向》

- 埼玉古墳群などの歴史・文化の継承による魅力の向上
- 周辺施設との連携によるにぎわいの波及
- 市内の資源・施設を回遊するネットワークづくり
- 観光資源に関する情報発信機能の充実



古代蓮の里

（５）河川・水路や田園などを核としたまちづくり方針

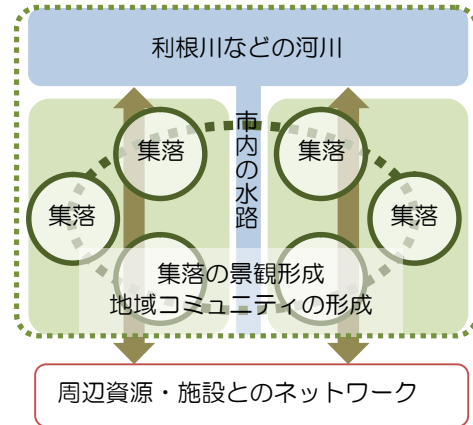
河川・水路や田園風景の豊かな自然と調和したまちづくり

地域生活圏（主に市街化調整区域）には利根川や武蔵水路などの水と緑の骨格となる自然資源を有し、その周辺には、田園が広がる風景の中に屋敷林で囲まれた既存集落地が形成されています。

自然資源との調和や戸建住宅を中心とした敷地内緑化により、緑豊かなまち並み形成を図ります。

また、既存集落地の定住を促進し、地域コミュニティの活性化を図ります。

■まちづくりの展開イメージ



取組みの方向

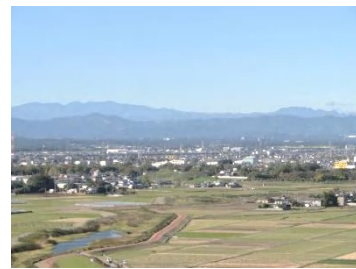
【河川・水路や田園などを核としたまち並みづくり】

遠方の眺望景観と調和した、平坦な地形に広がる緑豊かな景観を形成する

利根川・忍川などの河川、武蔵水路などの水路、周辺に広がる田園など本市の景観形成の骨格となる水と緑を保全し、それらの自然景観と調和した景観形成を図ります。また、屋敷林など地域の特徴である緑を保全するとともに、遠方の眺望景観と調和した、緑豊かなまち並みを形成します。

《取組みの方向》

- 河川・水路や田園などの自然環境と調和したまち並み形成
- 屋敷林などの特徴的な緑の保全
- 緑化によるゆとりある住宅地の形成
- 広々とした山並みが望める眺望景観の維持



平坦な地形に広がる河川や田園風景

【河川・水路や田園などを核としたにぎわいづくり】

定住の促進によるコミュニティの活性化により、地域のにぎわいを継承する

地域産業と一体となった定住を促進することで、地域特有の文化・行事などを維持し、地域コミュニティの活性化によるにぎわいを継承します。

《取組みの方向》

- 地域の生業と一体となった定住促進
- 地域コミュニティの活性化
- 地域の文化や行事によるにぎわいの創出



地域の生業（農業）

5. 地域資源のつながりに関する方針

(1) 地域資源の連携方針

核となる資源を有機的につなぎ、行田らしさの魅力を向上する

市内に点在する地域資源を忍川などの水と緑の資源で有機的に結び、資源間のネットワークを強化するとともに、周辺の資源や建物と調和したまち並みを形成します。

また、地域間をつなげる道路整備、地域公共交通やレンタサイクルによる移動手段や休憩所の確保により、回遊性の向上を図ります。

更に、ＪＲ行田駅及び秩父鉄道行田市駅などの交通結節点や、忍城址、さきたま古墳公園などの主要施設を中心に、総合的な情報発信の強化を図ります。

《取組みの方向》

- 忍川や武蔵水路などによる水と緑のネットワーク
- 来訪者の移動手段と休憩所の確保
- 市内の観光施設を回遊するネットワークづくり
- 交通結節点や主要な観光施設での総合的な情報発信機能の強化



市内を循環するバス

(2) まちづくり活動の連携方針

本市特有のまちづくり活動が相互に連携し、行田らしさの魅力を向上する

まち並み形成やにぎわいの創出にあたっては、地域の主体的な取組みが必要であり、そのためには地域のまちづくり意識の醸成が重要です。

歴史的建築物の活用や観光案内、歴史・文化の継承、ふらい・ゼリーフライの普及など、活動する様々な団体が相互に連携しあい、効果的な活動を促進するための仕組みを構築することで、行田らしさの魅力が向上し、地域の豊かな暮らしにつながります。

取組みにあたっては、市民と行政が連携・協働しながら、まちづくりを推進します。

《取組みの方向》

- 市民主体のまちづくり活動の推進
- 各種団体が連携できる仕組みづくりの推進
- 官民連携・協働によるまちづくりの推進



NPOによるそば打ち体験などの活動

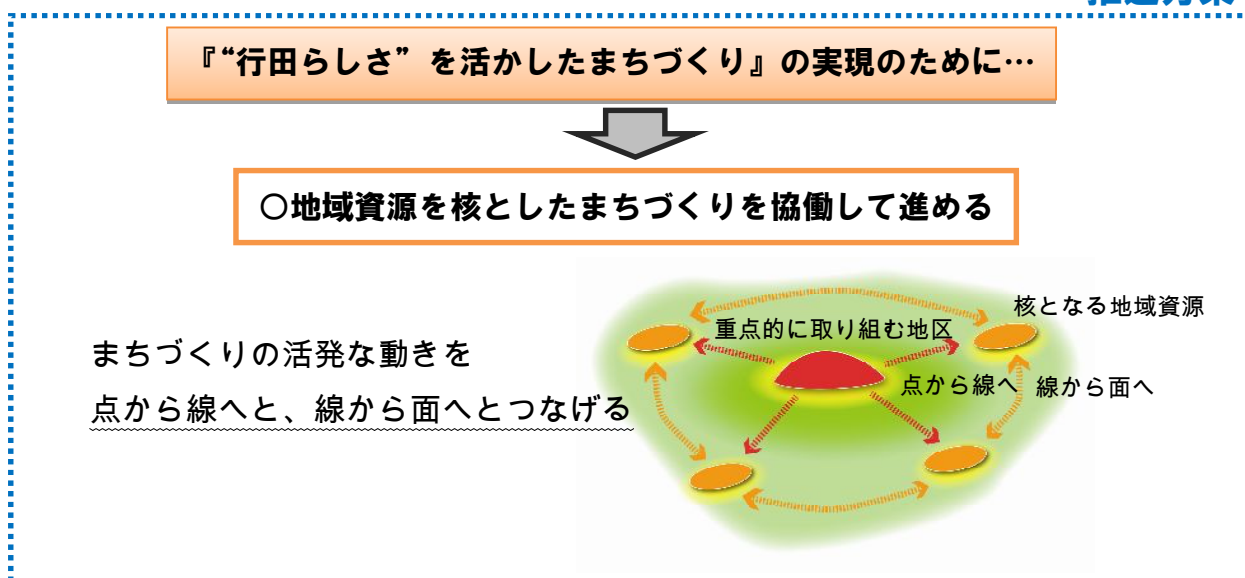
6. 行田らしいまちづくりの推進の考え方

本計画では、地形、自然、歴史、文化、気風から“行田らしさ”を定義し、この“行田らしさ”を活かしたまちづくりに向けて、本市を代表する地域資源を核としたまち並みづくりとにぎわいの創出のための取組みを連携・協働して進めていきます。

そのためには、“行田らしさ”を象徴する地区において、まち並みやにぎわいに関するまちづくりを重点的に取り組み、それにより生み出されるまちづくりの活発な動きを、点から線、線から面へ広げ、市域全体のまち並みづくりやにぎわいの創出につなげていきます。

■行田らしいまちづくりの推進の流れ

推進方策



実現化方策

